

いじらないと学んでいきます。

光受寺学習会



今月号からしばらくの間、光受寺学習会で学んでいくことの報告をしていきたいと思えます。

『歎異抄』を学んでいます。

歎異抄は、世界で一番読まれている仏教書といわれ、英語など様々な国の言葉で翻訳されています。

これを書かれたのは、親鸞聖人ではありませんが、親鸞聖人と『歎異抄』の中で深く、厳しい対話をされた唯円房だとされています。

歎異とは「異を嘆く」という意味で、親鸞没後に教えは混乱し、異議・異端を唱える者が多く出てきたことから、それを嘆き、名付けられたと言われています。直接「歎異抄」が書かれるきっかけになったことは、親鸞の弟子「善鸞」との義絶事件があったのです。

そもそも親鸞聖人は東国布教を終えられ、京都に帰られた後、東国では異端を唱える者が多くなり、聖人は実子である善鸞を東国に送

られ、事態の收拾を図ろうとされたのです。しかし善鸞は、異端の説得に失敗し、あることが、自らも異端を唱え始めてしまったのです。これが義絶の原因であり、歎異抄が書かれるきっかけとなったと言われています。

さて、歎異抄の中でも第3条の「悪人正機」(あくにんしよき)は真宗の教えの要でもありますが、異議・異端の代表的な例でもあります。「悪人正機」とは「悪人こそが救われる」ということになりませんが、その捉え方によっては大変危険な誤解を与える言葉にもなっています。

本来教えとして伝えたい意味は、「煩惱具足の凡夫たる悪人こそが、阿弥陀仏の本願による救済の正機である」ということで、決して説教苦的に悪を勧めているわけではありません。

『一念多念文意』には、「凡夫というのは、無明煩惱我が身にみちみちて、欲も多く、いかり、そねみ、ねたむころおおくひまなくして、臨終の一念にいたるまで、じよまじろ、きえず、たえず……」と言われていますが、死ぬが死ぬまで煩惱を消し去ることはできません。

そんな私たちだからこそ、常に弥陀の大悲に照らされ、自覚が促され、救われる身になっていくでしょう。

4月の学習会では、第2条まで学び進めました。来月は第3条の「悪人正機」についての学びとなります。ぜひこの機会にお寺へ足を運んでいただきたいと思います。

以前は第二土曜日の夜でしたが、ご高齢の方もお越しいただきやすいように第三土曜日の午後2時といたしました。念珠と赤本のみご持参でお越しください。資料等は準備いたしております。約一時間少々で、途中お茶の時間も設けて、皆さんとの交流を大切にしていきたいと思っております。

行事予定

お気軽にご参加ください。
お待ちしております。

5月

お寺サロン ○5月18日(木) 午後1時半
(会場 光受寺)

学習会 ○5月20日(土) 午後2時～

6月

紫陽花がきれいに咲くころです。

お寺サロン ○6月15日(木) 午後1時半～
(会場 廣専寺)

学習会 ○6月17日(土) 午後1時半～